

～市教研での授業を終えて(成果と課題)～

### 3年生の授業について

- ・筆算の仕方がきちんと説明できている。話し方もうまい。学習に向かう姿勢がよい。
- <交流の場に関わって>
- ・言いつばなしで終わるのではなく、聞き返しができるとよい。
  - ・ さんの考え方のどういう所がいいのかを明確にできると、他の児童にもその力を広めていくことができる。
  - ・交流の場で筆算の仕方を確認するだけでなく、ペアを作って問題を出し合い、それを答え合って、正しい筆算の仕方が身に付いているか、練習するとよかった。
  - ・学習リーダーが声をかけて交流を進めていけるように、学習の流れのきめ細かなルールを作ると、児童が主体的に活動できる。
- <算数の基礎・基本となる力に関わって>
- ・数え棒などの具体物を用いて、それを実際に動かしながら説明する。という活動まで取り入れると、数としての位取りの概念をよりしっかり身に付けることができる。
  - ・基礎・基本の力として、『筆算の時は下の位から答えを書く』ということは押さえておかななくてはいけない。

### 4年生の授業について

- <課題と活動に関わって>
- ・学習に向かう姿勢がよく、課題が掴みづらかったにも関わらず、真剣に授業に参加していた姿が素晴らしい。
  - ・「もっとよくわかる折れ線グラフ」という課題は、視点が明確でなく、どういうことなのか、何を考えればいいのか児童がつかみづらかった。課題を焦点化し、見通しを持って授業に臨めるようにさせたい。
  - ・今まで培った力を使ってすぐ取り組める、『できる課題』に設定すべきだった。
  - ・グラフのどこに目をつけるかを示しておけば、課題に向かうまで無駄な時間を省くことができた。
  - ・描いたグラフがどういう意味を持つのかもわかりにくいままだったので、考え方を比べて「間違えた」と考えてしまう児童もいた。自分がなぜそうしたのか、が言えるように、課題と活動に一貫性を持たせる必要がある。  
始めから「描いてみよう」では、どこに目を向けて描くべきか不明確のままである。  
そこで、  
視点の例 <折れ線グラフの線を急にするためにはどうしたらいいだろう。>  
すると  
「急にするためには という風にすればよい。」  
といった、変わり方や目盛りの取り方に目を付けた考え方が児童から出される。  
そこではじめて、その部分を描いてみることによって、変わり方の様子がはっきりしたグラフを描くことに行き着くことができる。
- ・能力差に応じて授業を組むなら、コースを選択するより、自分からどんどん次へ進む流れを作っておくといい。
  - ・チャレンジ問題 の扱いについて、違う問題であってもグラフは同じ枠にした方が、児童がわかって取り組んでいける。チャレンジといった応用・発展問題で考え方を押さえるのは難しいため。
  - ・算数科で求める力をつけるため、本時において応用・発展問題の必要性はなかったのではないか。
- <交流の場に関わって>
- ・折れ線グラフの概念を押さえる授業であった本時、交流をグループや個だけにまかせておいては、押さえるべきポイントが弱くなってしまう。ねらいに応じ、教師がぐっと入るべき場面も作らなくてはならない。
- <算数の基礎・基本となる力に関わって>
- ・自分で数値を入れないグラフでは、関数的な力はつかない。
  - ・グラフは「0からスタート」が重要なので、長い方眼紙を用いて授業を行えば、波線の必要性は自然と児童の中から出てくる。
  - ・グラフの中で、交点でない線上に値の点をとることは簡単なことではない。グラフはまず読み取る力が第一で、それから描いていくべきではないか。